

# ぽらーの花巻

PublicRelationMagazine, PolanoHanamaki

# 7

2016 No.221

特集

## 活力あるJAいわて花巻を創る

## 組合員意向調査



ちょっといい話 みんなおいでよ!

# 産直母ちゃんハウスだあすこ沿岸店

## 毎月11日は感謝デー

沿岸店では、毎月11日にお客様への感謝の気持ちを込めて感謝デーを開催しています。

沿岸店おすすめの品物を特別価格で販売!

食堂では、「絆カレー」を販売(350円)!

ボンディアソフトクリームは通常300円のところ250円で販売!

※内容は変更する場合があるほか、その月によっても異なります

11日は、我々にとって特別な日で、決して風化させてはいけない日。今ここで、多くの人に支えられて営業できているという感謝の気持ちを込めて地元の新鮮な食材をサービス価格で提供します。農業と地域の活性化の拠点として多くの人たちに愛される店舗を目指し、地域とともに歩んでいきます。

母ちゃんハウスだあすこ沿岸店 藤原吉秀店長

**周辺案内図**

大槌町大槌16-28 ☎0193-42-8151  
 駐 車 場: 普通車25台・マイクロバス2台  
 営業時間: 4月~11月 午前9時~午後6時  
 12月~3月 午前9時~午後5時  
 ※定休日は年末年始と第2木曜日を基本としていますが、祝祭日と重なった際は変更する場合があります

- 1.平成28~29年度の新役員。満面の笑みが絆の固さと意欲的な取り組みを象徴させる2.1年を通した多品目栽培に向け、定期的に開催する栽培講習会や園芸相談会
- 3.震災後から続けている仮設住宅などをまわる移動販売
- 4・5.平成28年1月15日のオープン時。農業と人を繋ぐ拠点として、地域の活力となれるよう活動を展開する

今年1月、産直母ちゃんハウスだあすこ沿岸店が希望のオープンを迎えた。その店舗内に色とりどりの農作物を並べ、にぎわいを加えているのがJA沿岸産直部会。会員たちの笑顔と明るく前向きな姿は、人にパワーを与え、地域に活力をもたらす。

東日本大震災後、沿岸地域の農業者たちは生産すらままならない状況の中、農業を諦めず、踏ん張り続けた。震災から3年経った平成26年2月、念願の部会が立ち上がったものの、主となる販売場所は無く、開店までの2年は通年出荷用の作物栽培に取り組みながら、仮設住宅をまわる移動販売や仮設店舗での販売、片道2時間かけ花巻市の母ちゃんハウスだあすこへ出荷を続けた。

現在は園芸相談会や研修会を開き、珍しい作物などと組み合わせられた少量多品目栽培で、通年の充実した陳列を指し奮闘中だ。研修会後は会員同士で苗のやり取りや、情報交換が続く。多くの苦勞を強いられた過去を受け止め、常に挑戦、前を見つめて進む姿勢が会員たちから輝きを放たせるのだろう。その原動力の源を会員に問うと、間髪入れずに返ってきたのは、「販売できる場所がある喜びと、少しずつ強くなっていく仲間との絆、お客さんとの交流。」

開店から半年、佐々木良子会長(写真1中央)が語る「店舗や農作物から、人を感じ、顔が見え、思いが伝わるような産直を皆で作りたい。」という未来に向かつて、母ちゃんハウスだあすこ沿岸店は新鮮野菜販売に加え、農業を通じて、人と地域が繋がる場所への進化を目指す。会員たちの前向きで強い志とともに、前に進み続けながら。

震災から5年。母ちゃんハウスだあすこ沿岸店に溢れる笑顔。ここは、農業と地域と人を紡ぎ、結ぶ場所。

JA沿岸産直部会 ◎大槌町大槌



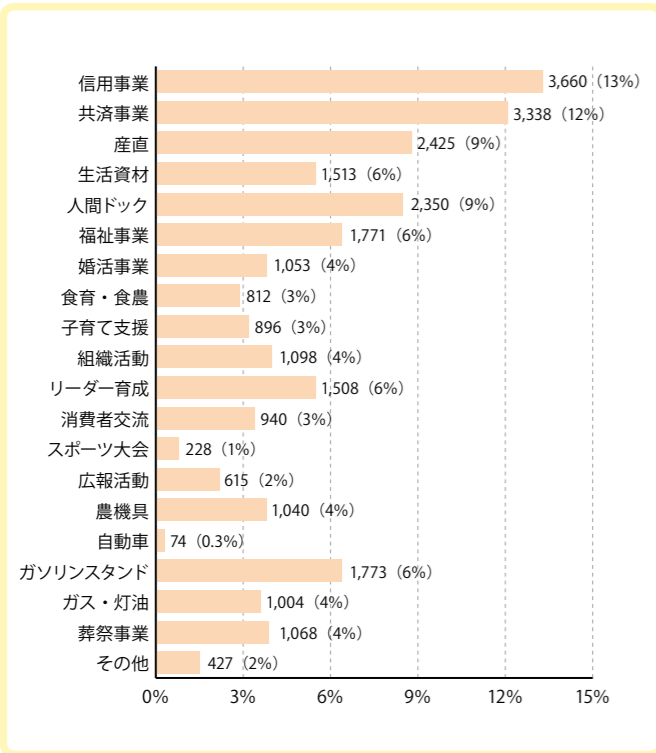
【部会データ】JA沿岸産直部会会員は、産直母ちゃんハウスだあすこ沿岸店への出荷者で構成し、大槌町を中心に釜石市の生産者や地元加工会社(団体含)など約100人が登録している。通年の充実した陳列を目指し多品目栽培に力を注ぐ。地産地消活動の推進も活発で学校給食や地元ホテルへも農作物を提供している。地域に根ざした産直店として仮設住宅を中心にまわる移動販売も行って、店舗まで足を運べない消費者から好評を得ている。

CONTENTS

**ぼらーの花巻** ●No.221 / 平成28年(2016)7月号

- 02 ぼらーのCOVER STORIES 愛農土に生きるII
- 04 特集 活力あるJAいわて花巻を創る 組合員意向調査
- 08 ぼらーのNEWS ●地域の話
- 10 あぐりネット
- 12 がんばる青年部 / 食と農の掲示板
- 13 旬の産直大百科 / ぼらーの広場
- 14 information ●役員室より / 理事会だより / 監事会だより
- 16 風趣点景 ●管内四季だより / 編集後記

問5 期待するJA事業はどれですか(複数回答)



調査から見える組合員の声

**【最も要望が高かった項目】**信用事業と共済事業。  
**【営農経営別】**「専業農業」は、信用事業や共済事業のほか、組織活動やリーダー育成などへの期待が大きい。  
**【生活に関わる事業】**農業者はもちろん、農業者以外からの期待も大きい。  
**【子会社事業】**農機具や自動車事業、ガソリンスタンドなど一定の評価がされている。

**農水省による調査**  
 今回のJA意向調査は、営農事業を除外して実施しているが、農水省による農協経済事業に対する調査(平成25年12月実施)では、営農指導事業に対する期待が大きく、最も期待する役割として営農相談との回答が多かった。同時に、営農指導員の訪問頻度が少ないとの回答も多い。

**JAの今後の取り組み**  
 ●総合事業を展開するJAとして、営農事業を支える両輪には、信用・共済事業と生活関連事業であることを意識し事業を進める。  
 ●くらしの活動を通じた地域コミュニティの活性化を図る。  
 ●JAと子会社が一体となった事業を展開する。  
 ●出向く営農指導活動の展開で組合員の期待に応えていく。

組合員の声をJA運営へ  
**活力あるJAいわて花巻を創る**  
**組合員意向調査**

5月末のJA通常総代会で設定した、第3次中期経営計画・営農振興計画の策定にあたり、JAでは農業およびJAを取り巻く環境の変化を踏まえ、さまざまな課題に対応すべく「組合員意向調査」を実施しました。組合員の意思・意向をJA事業に反映させ、ともに未来の農業・地域・ひとを創りあげていくことを目指しています。今回の特集では、調査した内容とその結果をお伝えします。

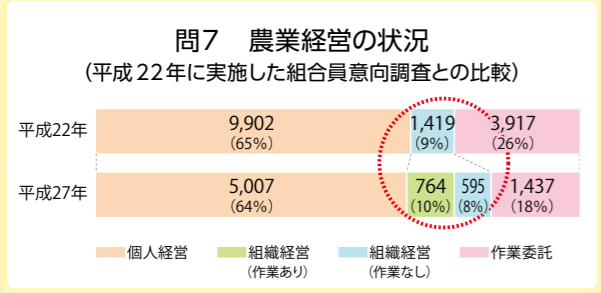
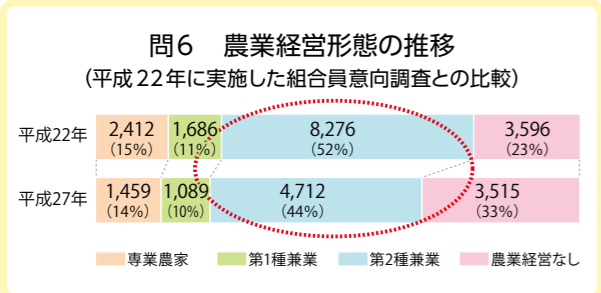
調査対象: 正組合員19,493戸 調査期間: 平成27年7月中旬~7月31日 回収結果: 11,475戸(回収率: 58.9%)  
 問1の所属支店調査、問2の年齢と性別調査による回答数  
 地域別 【花巻地域】5,742(63%) 【北上地域】2,928(55%) 【西和賀地域】732(64%) 【遠野地域】2,073(55%)  
 性別 【男性】8,600(75%) 【女性】1,924(17%)  
 年齢別 【39歳以下】123(1%) 【40代】560(5%) 【50代】2,361(21%) 【60代】4,549(40%) 【70代以上】3,727(33%)  
※%数値については、小数点以下四捨五入しています ※無回答については記載していません

問6 どのような農業経営形態ですか

調査から見える組合員の声

**【農業離れ】**平成22年と比較して、第2種兼業農家が約10%減少した半面、農業経営なしが10%増加しており、組合員の農業離れが進んでいる。  
**【年齢構成】**60歳以上が全体の約70%を占めており、農業者の高齢化が顕著で、第2種兼業農家を含めても29%と、若者の就農人口が伸び悩んでいる。また、専業および第1種兼業農家の60歳未満の割合は7%となっており、10%を割り込んでいる。  
**【女性農業者の割合】**女性農業者は11%で、岩手県の平均7%(2015農林業センサ調査)を上回っており、当JA管内における女性の農業参画が進んでいる。  
**【営農組織】**農業者のうち、営農組織への参入が17%となっており、そのうち42%は農作業に関わっていない。  
**【作業委託状況】**第2種兼業農家で顕著となっており、28%が営農組織への参加や作業委託している状況にある。

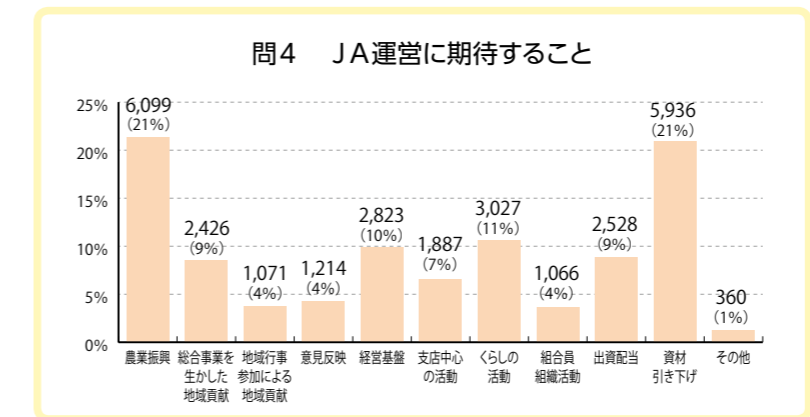
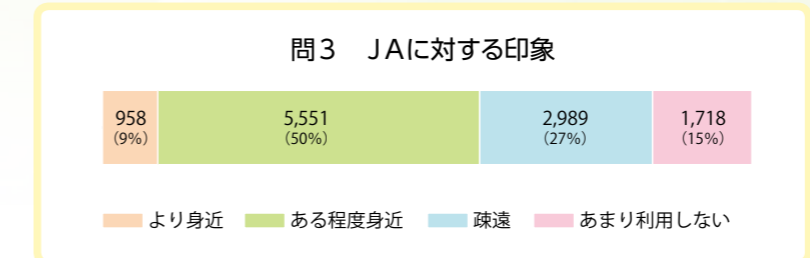
**農林業センサ(2015)による調査**  
 岩手県内の個人経営体が18%減少した一方、組織経営体が2%増加、また、経営体当たりの耕地面積も16%増加しており、着実に営農組織等への移行が進んでいる。



**JAの今後の取り組み**  
 ●集落営農を基本とした「地域ぐるみ農業」を実現するため、集落内の組合員総参加による集落営農ビジョンの話し合いを動きかける。  
 ●担い手経営体への農地集積拡大と集落営農組織・法人化を推進。担い手アドバイザーによる経営支援や記帳代行などの農業経営管理支援を強化。受け皿の確保と農業者育成に注力していく。同時に営農組織等への参画による農業離れの阻止も進める。

問3 「JAいわて花巻」をどれくらい身近に感じていますか

問4 今後どのようなJA運営に期待しますか



調査から見える組合員の声

**【全地域共通事項】**「地域性を活かした農業振興、地域貢献、価格引き下げ」に対する期待が大きい。  
**【営農経営別】**「農業経営なし」は、直接的に農業にかかわる項目に比べ、生活にかかわる項目(地域貢献、くらしの活動)に、より期待している。  
**【年代別】**30代から50代で「安定した経営基盤」に期待している。  
**【男女別】**女性は「生活やくらしに関わる活動(食農・婚活・高齢者福祉など)」に、より期待している。

**JAの今後の取り組み**  
 ●全支店で支店行動計画を実施し、支店を中心とした組合員と地域住民との結びつきを強化する。  
 ●地域生産力を生かした振興作物を設定。指導と販売を共に強化する。  
 ●水稲肥料成分直しや省力化栽培技術の普及、農機事業リースなど農業再生コストを低減し、持続可能な農業の確立に取り組む。

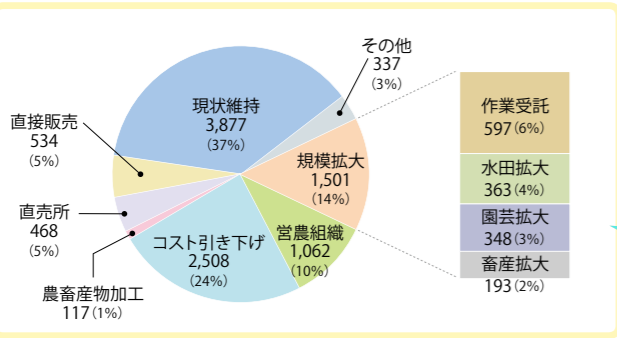
農林業センサス(2015)による調査

全国的には5ha以上の経営体が57.8%を占め、5年前と比べ6.4%上昇。岩手県は54.4%であるが、5年前と比べ8.0%の上昇となっており、この5年で農地集積が進んでいる。

JAの今後の取り組み

- 農地中間管理機構を通じて農地の貸し手と借り手を繋ぐ。
- 研修会(愛農土塾)を開き、情報提供や受け手(担い手)の育成を進める。
- 平場は担い手集積率80%を目標に推進する。

問12 農業所得の向上に向け、今後、どのような取り組みをしたいと考えていますか(複数回答)



調査から見える組合員の状況

【営農類型別】専業および第1種兼業農家の30代~50代は、規模拡大に積極的な面がある。  
【営農組織への参加】年代が上がるにつれ増加傾向。

JAの今後の取り組み

- 生産コストの引き下げによる所得増大のほか、規模拡大に対する支援策を講じ需要喚起し農業生産の拡大を図る。
- 消費者や実需者ニーズを踏まえた生産体制等の構築で、契約栽培や買取販売に取り組み販売力の強化を図る。

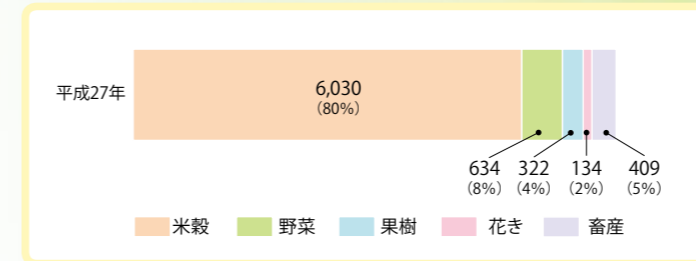
調査から見える組合員の状況

【地域別】米の割合が花巻地域と北上地域は80%を超え、西和賀地域は75%、遠野地域は69%。西和賀地域は「花き」、遠野地域は「畜産」の割合が高く、地域の農業形態がみえた。

農林業センサス(2015)による調査

岩手県は全国と比較して米穀と畜産の割合が高く、岩手県の主要品目といえる。また、農畜産物の出荷先として依然JAが高いシェアを占めているものの、岩手県内ではJA以外に「製造業・外食産業・直接販売」がシェアを伸ばしている。

問8 最も販売額が多い作物はどれですか

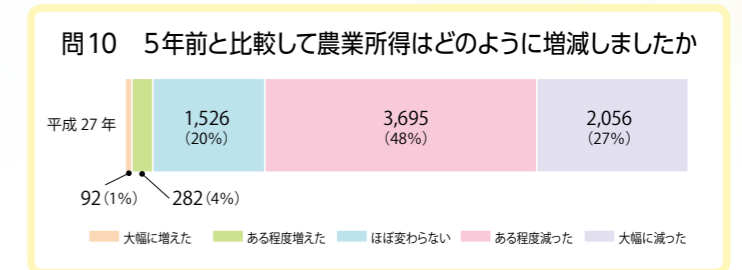
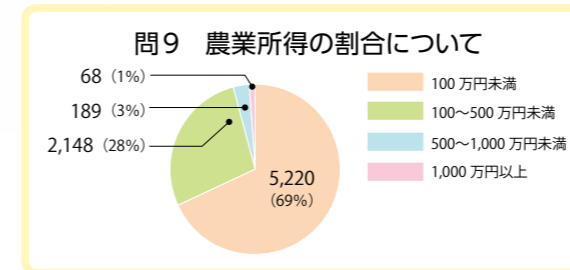


JAの今後の取り組み

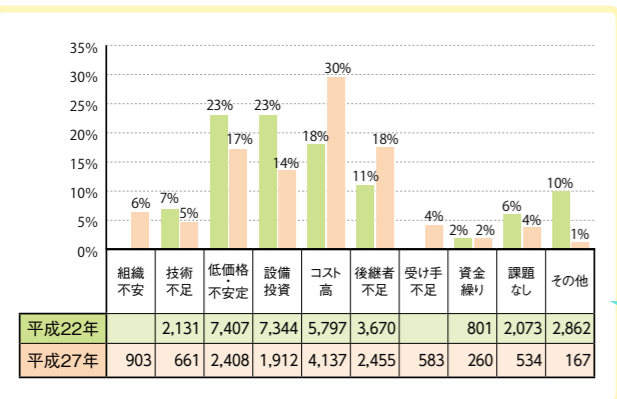
- 需要に見合った生産販売：平成30年の米の生産調整配分見直しを踏まえ、水田フル活用の構築を図る。
- 米産地：求められる米産地を構築するため、高品質で安定的な出荷量を保つとともに、米200万袋集荷運動を継続する。
- 地域特産：各地域の気候風土を生かし、需要者や消費者が求める農畜産物の生産に取り組み産地づくりを行う。
- 作物別の集荷対策を講じる。

問9 農業所得(手取り額)はどの程度ですか

問10 5年前と比較して農業所得はどのように増減しましたか



問13 どのような農業経営上の課題を抱えていますか。(複数回答)



調査から見える組合員の声

【農畜産物の価格】全世代において高い回答率となっているが、特に30~50代層で20%を超える回答率。  
【後継者不足】世代があがるにつれ回答率が上昇、特に農業者の70%を占める60代以上層で15%を超える回答率。  
【設備投資】30~50代で15%を超える回答率。

JAの今後の取り組み

- 生産資材のコスト低減のほか、各種リース事業を提案。
- 実需者、消費者の需要を把握し安定的な販売体制を構築、生産情報を密に提供し積極的な生産と販売を強化する。
- 若手農業者の育成や支援体制を整備する。

調査から見える組合員の状況

【営農経営別】「専業および第1種兼業農家」では500万円以上の層が多く、第2種兼業農家では100万円未満の層が82%を占めている。所得の増減では「大幅に増えたまたはある程度増えた」が9~10%の回答になっている。  
【年代別】サンプルが少ないものの、30代で500万円以上の所得を得ている割合が10%を超えている。  
【主要品目別】「野菜・畜産」が所得増加傾向にあり、昨今の米概算金引き下げに伴う水稲農家の所得減少が際立つ。  
【農業所得全体】主力品目である水稲農家の80%以上で所得が減少。野菜や畜産は市場の高値基調を背景に所得増加層の割合が多く、特に畜産農家が多い遠野地域では突出している。

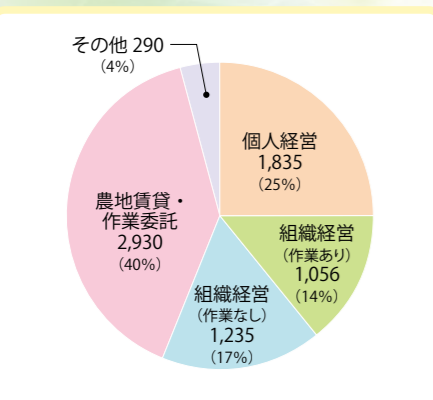
JAの今後の取り組み

- 農家組合員の所得増大：生産コストの低減、需要に見合った生産販売、効率的な農地集積、積極的なPR活動などを展開する。
- 地域生産力：主力品目である米の所得向上対策に合わせ、品目別のブランド化や産地化に向けた取り組み、販売戦略を強化する。

農林業センサス(2015)による調査

全国では500万円未満層が減少し、1,000万円以上層が増加(特に3,000万円以上層で顕著)に対し岩手県では100万円以上500万円未満層の減少に対して100万円未満層および500万円以上層が増加。  
営農組織への参画や大規模農家への作業委託等により経営基盤や農業所得の二極化が進んでいる。

問14 10年後の農業経営は、どのようになっていると思いますか



調査から見える組合員の状況

【営農経営別】2種兼業農家の60%が農業に関わっていないとの回答。  
【世代別】世代があがるにつれて営農組織に参加する傾向があり、農業に関わらないとの回答も増える。

魅力的な農業の構築に向けて

集落営農ビジョンの見直しや地域コミュニティの活性化、農業指導体制や販売体制の構築、農業生産の省力化と効率化などの対策を展開し、組合員の農業経営の向上を目指す。

農林業センサス(2015)による調査

岩手県での耕作放棄地は5年前と比べて25%増加し、農地の受け手がないうまま離農が進み農業人口の減少と耕作放棄地の増加が進んでいる結果。

問11 農地の売買や貸借について

調査から見える組合員の声

【年代別】60歳以上が全体の78%を占める。  
【農地集積】集積が進み、管内でも経営体当たりの経営面積は拡大したが、現時点で出し手側と受け手側にギャップがある。

合計(単位:アール)	営農類型別				
	専業	第1種	第2種	経営無し	
売りたい	48,599	7,755	4,574	27,489	5,468
貸したい	113,964	17,060	11,936	78,147	4,515
買いたい	15,375	4,821	2,601	6,837	516
借りたい	59,042	38,770	7,211	12,810	51

### 白ワイン「五月長根葡萄園」発売開始 今年も良質な出来栄え



横断幕を掲げ、第一便のトラックを笑顔で見送る参加者

(株)エーデルワイン(花巻市大迫町)は5月31日、2015年産白ワイン「五月長根葡萄園」の発売式を同社で行いました。  
社員や生産者たち約60人が参加し、藤館昌弘社長が「生産者が手塩にかけたブドウを使い、丹精込めて造った。ぜひ、今年の出来栄えを味わってほしい。」とあいさつ。関係者がテープカットしたあと、参加者たちは出発したトラックを拍手で見送りました。  
同ワインは、原料に町内のエコファーマーに認定された農家が栽培しているブドウ「リースリング・リオン」を使用。爽やかな香りで、程よい酸味と果実味のある味わい特徴です。

### 組合員の温かな思いを被災地へ 矢沢支店が呼びかけ、米1,650kgを熊本へ



被災地へ送る米を仕分けする職員

J A 矢沢支店(花巻市高木)は、4月に発生した熊本地震直後、支店管内の組合員に支援米の提供を呼びかけ、集まった1650kgの白米を被災地へ届けました。  
支店には1カ月間で約200人の組合員から、次々と米が運び込まれ、青年部が精米し、職員が10kgずつ分けて被災地へ送りました。米は指定避難所以外で物資が不足している場所での炊き出しとして振る舞われました。  
発起人の菅野秀和職員は「東日本大震災の際、多くの支援を受けた。自分たちも力になりました。組合員の皆様からの温かな気持ちは、被災地にしっかりと届けた。」と話しました。

### 母親と赤ちゃんのスキンシップ「ベビーマッサージ教室」 新たな世代をJAに



子どもに話しかけながらベビーマッサージを行う参加者

J Aは6月9日、北上支店(北上市流通センター)で地域住民対象のベビーマッサージ教室を開きました。  
教室には7人が参加し、講師の高橋恵美さんからマッサージの意味や効果を学び、我が子に微笑みかけながら優しく触れ、スキンシップを図りました。参加した高橋城子さん(37)は「息子が心地良さそうで嬉しかった。興味があったので、声をかけてくれた渉外担当者に感謝。」と話しました。  
募集は、JA活動になじみの薄い層にも参加してもらおうと、支店の渉外係が生後3〜10カ月の乳児のいる家庭に声かけ。顔なじみの渉外担当者からの紹介は安心できたと好評でした。

### 組合員・地域住民と交流深める 岩崎支店「手作りランタン講座」



ランタンを作りながら支店職員と交流する参加者

J A 岩崎支店(北上市和賀町)は6月15日、組合員や地域住民対象の「手作りランタン(照明)講座」を開きました。  
講座に参加した6人は、支店職員から教わりながら花やフクロウなどの柄を熱心に切り貼りし、鮮やかな和柄のランタンを完成させました。参加者の八重樫真美子さん(64)は「忙しい毎日を過ごす中でゆつくりと物作りができる機会をもらえた。楽しかった。」と笑顔を見せ、高橋信子支店長は「気軽に支店に足を運んでもらうきっかけを作ってほしい。」と語りました。  
今後も、同様の講座を2回開く予定です。次回は8月2日に、ちぎり和紙でうちわを作ります。

### 花巻農業高校生「海龍包」を開発

東日本大震災の被災地を食で笑顔にしたい



大槌町内の学校給食用に心を込めて「海龍包」を作る同班メンバー

花巻農業高等学校食農科食育研究班3年生は、東日本大震災の被災地を食で笑顔にしたいと三陸産食材を使用した「海龍包」を開発しました。  
中華料理の小籠包から着想を得て、同班6人が(有)カスイと共同開発。ホタテや茎ワカメ、白金豚などを混ぜ生地で包んでいます。ジュシーな食感になるようゼラチン状にしたスープ、同校製造の梅ジャムやみそを加え、オリジナルの味に仕上げました。  
6月9日には、同班メンバーも製造に携わった1760個を大槌町内の全小中学校の給食として提供。児童にパネルを使って栄養面や商品説明し、復興や開発への思いを伝えました。同班の昆美緒さん(18)は「被災地に届けることに意味がある。子どもたちがおいしいありがとうと言ってくれて嬉しかった。」と笑顔をみせました。

### 小麦優良種子生産に向けて

農事組合法人「なべくら」小麦採取ほ場雑草抜き



一斉にほ場に入り異品種の穂を取り除く組合員

花巻市の農事組合法人なべくらの上新田支部は6月4日、小麦採取ほ場の雑草抜きを行いました。  
法人は、水稲を中心に、小麦やハトムギ、大豆やエダマメなど211haで栽培しています。同日は小麦採取ほ場を管理している同支部員22人が、10haのほ場の小麦の生育や雑草の発生状況を確認し、約7時間かけて異品種の穂を抜き取りました。  
種子生産は基準が厳しく、ほ場での審査が2回、6月から7月末の収穫後にも発芽試験や農産物検査などさまざまな審査があります。市川薫支部長は「地道な作業が一番大切。支部員が総出で作業することで優良種子生産への意識も高まる。」と汗を拭きました。組合員たちは、今秋の播種用として全国の小麦生産者のもとへ届けられるまで、徹底した管理のもと栽培します。

## 畜産

### 6月1日は牛乳の日

#### ◆牛乳PR! たくさん飲んで!

JAとJA全農いわては、6月1日の「牛乳の日」に合わせて、JR花巻駅前牛乳400個を配りました。

牛乳に対する関心を高め酪農を多くの人に知ってもらいたいと、通勤や通学の駅利用者に牛乳の栄養や牛乳が出来るまでが書かれたパンフレットとともに200mlの県産牛乳を手渡し、「牛乳には栄養がたくさん入っています! 毎日飲みましょう」と声をかけました。

また、JA全農いわては同日、JR水沢駅と一ノ関駅で300個と800個を配ったほか、岩手大学内でも1,000個を配布しました。



夏を牛乳で乗り切ろう!

暑さにつよい体をつくる!



熱中症の予防にも、牛乳がパワーを発揮!

過度な運動後に牛乳などのたんぱく質と糖質をふくむ食品をとると、血液の量がふえます。すると汗をかきやすくなり、熱を逃して体温があがりにくい、暑さにつよい体になることが最近の研究でわかってきました。暑くなる前に、おためしを!

資料提供: 一般社団法人中央酪農会議

## 園芸

### 大槌町産シイタケ! 大健闘!

第55回農林水産祭参加第49回全農乾椎茸品評会(出品数: 全国から6銘柄364点)において、大槌町の兼澤平也さん(68)と静子さん夫婦が花どんこの部で農林水産大臣賞を受賞しました。今年は、寒暖差が大きく栽培に苦勞する年でしたが、兼澤さんはハウス内の温度や湿度などの栽培管理を徹底。日々の努力が受賞へと繋がりました。

第46回岩手県乾しいたけ品評会(出品数: 県内から5銘柄92点)では、大槌町の三浦蔵七さん(74)がこうしんの部で最優秀賞を受賞。品評会は、東日本大震災による福島第二原子力発電所の事故以来、開催を見合わせていましたが、今年5年ぶりに再開。三浦さんのシイタケはフチの巻き込みとヒダの色が評価され

受賞となりました。

大槌町では、原発事故以前には50人近くいた生産者が半減し、現在は15人の出荷制限が解除になっています。三浦さんは原発事故後、所有ほだ木6万本を破棄し再出発。現在は2万本で栽培しています。「原発事故後、辞めようとも考えたが、諦めずにやってきてよかった。栽培仲間たちと支え合いながらここまでできた。」と受賞の喜びを語りました。三浦さんのシイタケは7月に行われる全国大会へ出品されます。



兼澤平也さん(左)

三浦蔵七さん(中央)

## 畜産

### 第2回花巻農協肥育部会女性部枝肉研究会

#### ◆最優秀賞に渡辺さん

JA肥育部会女性部は6月3日、東京食肉市場㈱で「第2回花巻農協肥育部会女性部枝肉研究会」を開催しました。

去勢、雌の黒毛和種合わせて24頭が出品された研究会では、女性の元気な「わっしょい」の声が響き渡り会場を圧倒させました。最優秀賞には、渡辺容子さん(73)が選ばれ(出品: 雌、生体重720kg、枝肉重量467kg)小ザシでバランスよく入ったサシのほか、肉付きや体形の良さが評価されました。渡辺さんは「これまで管理をひとりで行ってきた。受賞はこれからの活動の励みになる。」と笑顔を見せました。



最優秀賞の渡辺容子さん(左)と受賞者 セリ場の様子(東京食肉市場㈱)

#### ◆女性の活躍

同研究会は、北上地域肉牛部会の女性部が平成6年から開催していましたが、昨年度より、管内全域の肥育に携わる女性を対象に開催しました。管内の女性部の技術の研さんと交流を深めるとともに、女性の活躍の場を広げ、畜産を活性化させることを目的としています。女性の活躍は今後の畜産に新たな風を呼び込むと期待がかかります。

#### 牛飼いい女子たちの活躍

岩手県は肉用牛や酪農に携わる女性を「牛飼いい女子」と位置付け、女性の視点を生かしたグループ活動を支援し女性の経営参画の推進を図る活動を展開しています。JAの北上地域では畜産に携わる女性で構成する「ビーフレディースたかみ」が肉牛の消費拡大やPR活動、商品開発などを展開。研究会も女性の活躍の場の拡大に向けて追い風となっています。



## 米穀

### 雑穀機械化体系に向けて

JA管内で生産した雑穀を製品化している、JAの子会社(株)グリーンサービス花巻プロ農夢花巻事業本部では、雑穀「いなぎび」を苗で移植する栽培試験に取り組んでいます。全国から高い需要があるものの供給が間に合わない状況にあり、今回の試験が成功すれば新規栽培にも取り組みやすくなり、栽培規模拡大への新たな可能性が生まれると期待がかかります。

#### ◆播種が一般的な雑穀、苗移植でのメリットは?

- ・播種後の間引きなどの作業を軽減できる
- ・気象状況や病害虫のリスクを回避できる(播種後のゲリラ豪雨などで種が流れてしまうなど)



苗の移植試験。プロ農夢花巻では今年度、3つのほ場で試験栽培を行います

## 園芸

### ピーマン選果始まる!



JA石鳥谷東支店敷地内(花巻市石鳥谷町)にあるJA石鳥谷園芸センターでは、6月1日からピーマンの選果が始まりました。管内のピーマンはすべて石鳥谷園芸センターに集約し、共同選果しています。出荷最盛期は8月です。

#### ◆共同選果のメリット

- ・収穫後コンテナのまま出荷でき、農家の労力軽減になる。
- ・品質や規格が統一され信頼のおける産地を確立できる。

#### ◆平成27年度の販売・出荷実績

販売: 約4億円  
出荷: 約12万9,000ケース(7.5kg/1ケース)

#### ◆ピーマン豆知識

特有の香りと鮮やかな彩色を持つ。疲労回復や美肌など幅広い薬能を持つ夏野菜の代表格。

### グリーンセンターの定休日

7月・8月の定休日と営業時間は次の通りです。ご確認の上ご来店ください。

※定休日と営業時間はそれぞれの店舗によって異なりますのでご確認ください。  
8月31日(水)は棚卸の為、全店休業と致します。

	7月	8月	営業時間
花巻	20日(水)	16日(火)	8:30~17:30
石鳥谷	9日(土)	13日(土)	8:00~17:30
大迫	土曜日・日曜日・祝日		8:30~17:00
東和	16日(土)・30日(土)	20日(土)	8:30~18:00
北上	17日(日)	21日(日)	8:30~18:00
西和賀	17日(日)	21日(日)	8:30~18:00(土日祝17:00まで)
遠野	13日(水)	15日(月)	8:30~18:00

●お問い合わせ/営農推進部生産資材課 ☎ 0198-22-6192 または、最寄りのグリーンセンターまで



はなまき特産物直売所すぎの樹

# 国体参加者を 花いっぱいでお出迎え



J Aはなまき特産物直売所「すぎの樹」の出荷者で構成する「すぎの樹の会」は6月14日、プランターに花を植えて店舗前に飾りました。



会員たち約10人が、スコップで用土に肥料を混ぜたあと、用土をプランター15個に移し、白や赤、ピンクのペゴニアの苗60本を1本1本丁寧に植えました。色とりどりの花が来客者を出迎え、また沿道走る車や通行人の目も楽しませています。

この取り組みは、店舗に立ち寄るきっかけになればと約10年前から行われており、今年は希望郷いわて国体の競技が店舗近くの花巻市スポーツキャンプむらで行われることも意識して実施しました。

佐々木よう子会長は「地域がにぎやかになればと思い植えた。国体に参加する選手や応援団の方々に見てもらい、安らいでほしい。」と話しました。

佐々木よう子会長は「地域がにぎやかになればと思い植えた。国体に参加する選手や応援団の方々に見てもらい、安らいでほしい。」と話しました。



すぎの樹へぜひ  
お越しください!

すぎの樹  
花巻市太田42-227-2  
☎0198-28-2209

## がんばる 青年部

### 熱きメッセージを看板に! 立て看板作り

J A青年部は、農業のある地域づくりの大切さを農業関係者や地域住民にアピールする活動の一環として、各地域の支部ごとに「立て看板運動」に取り組んでいます。

そのうち、花巻地域花巻支部は6月20日から花巻支店営農課(花巻市桜町)で作業を始めました。農作業を終えた午後7時に盟友が集まり、さまざまな色のペンキを塗り進めながら、盟友たちの思いを看板に込めました。図案は、籾を差し出している両手を中心に、



細かい部分を丁寧に塗る盟友たち

農業者の高齢化を連想させるイラストを配置。多田徹支部長は「お米は毎日食

べていて魅力的な食べ物だが、現状は農業者の高齢化やTPPなど問題を多く抱えている。この看板を通して、地域の農業について考えてほしい。」と話しました。制作した看板は花巻支店の入口横に掲示してあります。



皆のアイデアを集めた看板の前に笑顔を見せる盟友

同運動には、県青協が主催するコンクールも設けられており、選出された看板は全国コンクールに出品されます。昨年は花巻地域石鳥谷支部が全国コンクールでJ A共済連賞を受賞しました。

## ぼらの 広場

ぼらの広場は、読者の皆様との交流の場です。皆様からテーマにちなんだお便りを募集し、紹介しています。投稿を頂いた方の中から抽選でJ A商品が当たるチャンスも!

### 今月のテーマ 七夕



「織姫と彦星が会えるね」と我が子に話すと「プレゼントは?」とサンタを思い浮かべた様子。クスッとしたエピソードです。(遠野市・ルンルン)

幼き頃食べた「七夕そうめん」。白い麺の中にピンク色や緑色の麺が入っていて嬉しかった日々を思い出しました。(花巻市・赤ずきん)

遠野市の土淵にある「デンデラ野」、小高い丘で見晴らしがよく、星がきれいに見えますよ～。七夕の日に行ってみようかな。(遠野市・赤河童の子)

彦星は1年に1度、織姫に会いに行く。2人の距離は16光年で超遠距離恋愛。今年の七夕も晴れて、2人が会えますように。(西和賀町・雪星)

彦星は農業に適した時期になると明るくなるから農事の基準、天の川を挟んで明るくなる織姫は仕事を司る星と考えるそうですね。(北上市・匿名)

この春小学生になった娘は星が大好きでどんな星座もわかる星博士。天の川が広がる季節、星めぐりが楽しみです。(福島県・かんちゃんの子)

来月のテーマ(9月号掲載)「おらほの地域の観光スポット」 応募締切/8月10日(水) 消印有効

### テーマにちなんだエピソードを募集します。

有名観光地から地元の人しか知らない秘密のスポットまで、お住まいの地域にある観光スポットを教えてください。

応募方法: ①テーマにちなんだお話②郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号③ペンネーム④JAや広報誌に関するご意見・ご感想を記入のうえ、ハガキまたはメールにてご応募ください。

※投稿頂いた中から内容を誌面に掲載させていただきます。ペンネームが無い場合はイニシャルでの掲載になります。

●ハガキ: 〒025-8504 花巻市野田316-1 JAいわて花巻企画広報課「ぼらの広場」宛

●メール: polano@jahanamaki.or.jp ●当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

お便りを投稿頂いた  
方の中から抽選で5名様に  
JA農産物直売所商品や  
JA商品をプレゼント!

## 心を耕し未来へ 食と農の掲示板

### ～手軽に出来る和菓子作り～



どら焼きの生地作りを実演する牛崎さん(右)

分量などを真剣にメモを取る参加者たち

JAは6月10日、北上地域の組合員やその家族などを対象とした「くらしの活動料理講習会」をJ A北上地域料理研修施設来夢(北上市流通センター)で開きました。

この講習会は9月までに4回開き、さまざまな料理の調理方法について学びます。第1回目の開催となった同日は16人が参加し、牛崎日出男さん(J A生活福祉リーダー)を講師に迎えて、どら焼きと電子レンジで作るいちご大福に挑戦しました。

参加者たちは牛崎さんの説明に聞き入り、「分量はどのくらい」などの質問をし、真剣にメモを取りながら作業を進めました。


いちご大福の生地は、もち粉や水などを混ぜ合わせたものを電子レンジで温めてかき混ぜる作業を数回行って作り、どら焼きの皮は、薄力粉を使ってホットプレートで焼き上げ、いちご大福約50個とどら焼き約30個を参加者たちで協力して完成させました。試食会では、出来たてのおやつと共に参加者同士の交流を楽しみました。

参加した伊藤文子さんは「どら焼きを皮から作るのがあまりなく、良い経験になった。家でも作って家族と食べたい。」と笑顔で話しました。

## 新規栽培希望者対象 園芸YARUBEセミナー開催

将来、販売を目的とした野菜や花きの栽培に取り組みたい方を対象にほ場見学会を開きます。一人ひとりの課題解決に向けて個人面談も行いますので、ぜひ参加してみませんか？

**※家庭菜園向けではありません。**

<p><b>日時</b> 平成28年8月19日(金)午後1時～4時30分</p> <p><b>集合場所</b> JA本店総合営農指導拠点センター (花巻市335-2)</p> <p><b>定員</b> 30人 定員になり次第終了します</p>	<p><b>内容</b></p> <p>1. ほ場見学(バス移動) 野菜(果菜類、葉茎菜類など)、花き(りんどう、小菊など)</p> <p>2. 個人面談会</p> <p><b>お申し込み</b> 電話またはファックス(住所・氏名・TELを記入)でお申し込み下さい。</p>	<p>栽培現場を見学!</p> 
---	---	---

●お問い合わせ・お申し込み 営農推進部園芸販売課 ☎0198-22-6217 FAX 0198-22-3390

## 秋の味覚 お届けします!

豊かな自然の恵みをたっぷりと浴びた、みずみずしいブドウ「イーハブドリ」の全国発送の受け付けを8月から開始します。大粒の果粒にコクのある甘味がいっぱい詰まった旬の味覚を、大切な方へお届けしませんか？

商品記号	商品名	容量	価格	発送時期
A	紅伊豆 (限定1,500ケース)	化粧箱 2kg標準	4,500円 (送料・消費税込)	9月上旬～
B	ロザリオピアンコ (限定1,000ケース)	化粧箱 2kg標準	4,500円 (送料・消費税込)	9月中旬～

◎受付期間:平成28年8月1日～31日まで ◎送付方法:日本郵便(クール便)

※天候や生育の状況により、発送時期がずれる場合があります。あらかじめご了承ください。  
※お客様からお預かりした個人情報、JAにおいて厳重に管理し、ご注文の発送および今後の商品情報の提供などに使用します。

●お問い合わせ 営農推進部園芸販売課 ☎0198-22-6217

## 役員室より

農業情勢、国内対策を見極め、組合員と地域のためのJA運営を

代表理事組合長 高橋専太郎

TPPは国と地方の見解が真二つに分かれる中、秋の臨時国会での批准が焦点となっています。経済界が主張する市場原理を優先する社会構造では、地方創生の地域農業振興は不可能。だからTPPはやってはいけないのです。JAも言うべきことはしっかり主張します。

さて、高齢化社会における生産振興の変化と国民消費の減少は国内農業の構造改革を加速しています。地域農業再編と新たな地域システムの構築は早急に取り組むべき課題です。当組合の水田面積2万6千haのうち1万5千ha(集積率55%)は2160人に受委託しています。これを、80%の集積率を目標に推進していきます。また、改正農協法が4月1日に施行になり、平成31年までにあるべき方向が示されます。協同組合理念から逸脱することのないよう主張していきます。

いろいろな背景の下に、営農とくらしの活動を車の両輪とし、第3次中期経営計画と営農振興計画を策定しました。組合員・利用者皆様方のご協力の下進めて参りますので宜しく願い申し上げます。

## 食と農について学ぼう! 「ちゃぐりんフェスタ」を開催

「いのち、農業、食べ物の大切さ」について楽しく学べるイベントを開催します!

- 日時・場所  
7月30日(土) 午前10時～午後2時  
JA本店総合営農指導拠点センター
- 参加費 (教材・昼食・材料代等)  
1,000円(親子1組)
- 内容  
・親子で楽しめる野菜のお話  
講師はNHK「趣味の園芸やさいの時間」でおなじみ藤田智氏。  
・ペットボトルで作る手作りプランター  
・昼食はカラフルやさそば他
- 参加対象者(定員:親子70組)  
JA管内在住の小学生と保護者  
※西和賀地域・遠野地域はバス送迎します
- お申し込み  
JAホームページよりお申込みください。  
<http://www.jahanamaki.or.jp/>
- お問い合わせ  
生活福祉部生活ふれあい課  
☎0198-45-1213

## 新緑の中で 夏と地場産食材を味わおう!

バーベキューや水遊具などを楽しめる期間限定の特設イベント「じゃぶりバル!」を開催します。

- 日時・場所  
7月末～8月中旬  
午前10時～午後4時  
午後6時～午後9時  
鳥谷ヶ崎公園(花巻市城内花巻城跡)
- 内容  
東北初ウォータースライダーなどの水遊具、バーベキューや飲食多数、ビアガーデン  
イベントは天候や点検のため予告なく内容を変更する場合があります。

バーベキューにはJAの食材を一部使用しています。

- お問い合わせ  
(株)HACL(ハックル)  
☎0198-21-4115

## 総代選挙のお知らせ

総代の任期満了(平成28年8月20日)に伴い、総代選挙が次のとおり行われます。詳細については、7月30日付けで各農家組合長からお知らせ致します。なお、届け出のあった総代候補者の人数が各選挙区の定数となった場合は、投票は行いません。

- 選挙期日 8月12日(金)
- お問い合わせ  
企画管理部総務課  
☎0198-23-3333

## JA職員を募集します

平成29年4月に採用する職員の採用試験を以下の日程で行います。

- 日時  
9月23日(金)
- 選考方法  
筆記試験、面接試験  
※詳しくは当JAホームページをご確認ください。  
<http://www.jahanamaki.or.jp/>
- お問い合わせ  
企画管理部人事課  
☎0198-23-3333(代表)  
☎0198-22-6266(直通)

## 平成28年度狩猟免許 取得試験のご案内

- 狩猟には、狩猟免許が必要です。
- 狩猟免許の種類  
①網猟 ②わな猟  
③第一種銃猟 ④第二種銃猟
- 試験日時・場所  
◎8月28日(日) ※試験の種類は②と③です。  
山田町中央コミュニティーセンター  
◎12月11日(日)  
岩手大学生センターA棟
- 試験内容  
知識試験・適性試験・技能試験  
※受験には手続きが必要です。受験を希望する方は下記までお問い合わせください。
- お問い合わせ  
岩手県環境生活部自然保護課  
☎019-629-5371

## 参与の紹介

当JAでは、青年および女性の意見を直接組合運営に反映させるため青年・女性参与を設置しています。参与は、理事会に出席して青年・女性の立場から意見を述べ、組合運営に協力します。今回、1年の任期で参与を任命しましたのでご紹介します。



左から菅原千晶さん、菊池範子さん、佐々木政則さん、菊池修二さん

### ●理事会日より

次の事項について審議され、全議案議決されました。  
第5回理事会 開催日:6月24日(金)

### ■決議事項

第1号議案 総代選挙期日及び日程について

第2号議案 平成27年度ディスクロージャー誌の決定について

第3号議案 日本椎茸農業協同組合連合会からの脱退について

第4号議案 指定障害福祉サービス事業(居宅介護、重度訪問介護)運営規程の改正について

### ●監事会日より

次の事項について協議されました。

第5回監事会 開催日:6月24日(金)

### ■協議事項

(1) 平成28年度第1回常勤理事との定期的会合の開催について

(2) JAバンク財務モニタリング結果に対する監事意見について



# 風趣点景

管内四季だより④



## 「イギリス海岸出現」

花巻市上小舟渡（イギリス海岸）

写真・文／高沢 翔

西和賀町をメインに風景写真を撮っている写真家。

ホームページ「高沢翔写真館」<http://esuke.sakura.ne.jp>

撮影データ(デジタルカメラ) 7月中旬  
ISO感度: 200 絞り: f16 露出補正: +0.7

宮沢賢治が命名した

「イギリス海岸」。北上川

の流量により普段は水面

下で見られないようです

が、九月二一日の賢治の

命日には人工的に海岸を

出現させているそうです。

そんな時、昨年七月に

「イギリス海岸出現」の記

事が各新聞に掲載され早

速撮影に出かけました。

小雨続きで川の水位が低

下し、この時期としては

二一年ぶりに顔を見せた

とのこと。

いろんなアングルで

撮った写真の一枚です。



## 編集後記

From Editor's



大学の後輩が企画した就

活セミナーで話をしてく

た。依頼された理由は、私が

仕事に行きたくないという憂

鬱な朝を迎えた事が無いから

だった。参加者に向けている

はずの言葉は自分に降ってき

て仕事を見直すきっかけをく

れた。「今日の背伸びを明日の

当たり前に」をモットーにし

てきたが、その底力は、人から

もらっている。その人達の思

いに応えたい。これが私の働

き力。爽やかな朝、仕事着に

腕を通すと血が沸き出す。さあ

準備万端、あとは広報マンと

して何をするか。頂いた原動

力、無駄にはしない。「大内」

先日、広報担当が使ってい

る棚の中身を整理した。

そこから出てきた、写真と広

報誌の山々。中には、フィルム

の写真や20年近く前の広報誌

も。めくってみると、歴代の

広報担当が魂を込めて書いた

文章と撮った写真が、そこに

あった。「本当に良い広報誌は、

時間が経っても廃れない」と感

じた瞬間だった。今、良いと

感じる広報誌を作ることが第

一の目標。難しい事だが、あえ

て言うならば、「あの広報誌は

良かった」と言っておけるよう

な後世に残る広報誌を、第二

の目標にしたい。

「佐藤

平

成

28

年

7

月

10

日

発行

ホ

ム

ペ

ー

ジ

ャ

ド

レ

ス

http://www.jahanamaki.or.jp/

発

行

●

花

巻

農

業

協

同

組

合

／

〒

025-8504

岩

手

県

花

巻

市

野

田

316-1

TEL.0198-23-3333 (代)

編

集

●

企

画

管

理

部

企

画

広

報

課

・

広

報

編

集

委

員

会

印

刷

●

川

嶋

印

刷

株

式

会

社